

母校とともに発展する首都圏段戸会

首都圏段戸会会长 外村 仁（高八回）



平成20年9月
第22号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
外村 仁
編集発行人
広報担当
杉浦 嘉久

今年も会報（秋号）の原稿を書く時期となりました。うだるような暑さ。秋の到来が待たれます。さて、私が会長をお引き受けしたのは六年前のことですが、その際まず目標としたのは、目覚しい進化を遂げつつある母校にふさわしい同窓会として首都圏段戸会を充実させることでした。毎年四分の一近くの卒業生が首都圏の大学に進学し、更に就職によってこの地域に居住する同窓生の数が年々増加する傾向が顕著になっていました。おそらく従来の常識を超えるスピードで岡高同窓生のプレゼンスが当地域で大きくなっていると思われました。

このような新しい時代の潮流に乗り遅れないよう当会も発展、進歩していくかねなりません。さもなければ、当会はありませんでした。具体的な施策としては年に

な催事に参加できる段戸フォーラムや戸サーカルの充実、大学生も含めた若い年次への積極的な働きかけなどを中心とし、またホームページや会報を媒体とする広報活動にも注力しました。

それから六年、皆さんの協力のおかげで首都圏段戸会の充実度は大いに高まり、当初の目標に向かって順調に発展しています。若い年次層の参加が増えた結果、総会の参加者も数年間で5割増の300名近くとなり、世話人の数も60名とほぼ倍増しています。六年前に考えたことは、やや気張つて言えば、一流高校は同窓会も一流でなければという想いでし

た。皆さんのご支援によって、首都圏戸会は確実にその方向へ進んでいくことをご報告したいと思います。

それでは11月2日の総会・懇親会に皆さんのご出席を心よりお待ちしていま

講演会・講師紹介
講師 内山田邦夫さん（高21回）
東大法学部卒後警察庁へ（元）警
察庁長官官房審議官（警備局担
当）／（前）警察大学校長／現在
神戸製鋼常任顧問

第36回首都圏段戸会総会・懇親会

講演会・講師紹介
講師 内山田邦夫さん（高21回）
東大法学部卒後警察庁へ（元）警
察庁長官官房審議官（警備局担
当）／（前）警察大学校長／現在
神戸製鋼常任顧問

犯罪についての捜査や犯人逮捕などは刑事もののテレビドラマでも良く目にしますが、犯罪予防や治安維持など警察活動のもうひとつの側面は、機密性、専門性が高く、あまり報道されることがあります。

今回は、主に、危機管理・情報収集の要職を歴任し、今春、警察庁を退官した内山田邦夫氏が講師です。今だから語れる警察の治安維持の舞台裏を、自らの経験にもとづいてお話しいただきます。



内山田氏夫妻

講演テーマ・警察の治安維持の舞台裏
～変化する治安レパートリー～
トイレ掃除から情報衛星まで～
〈講師略歴〉
警察庁、内閣情報調査室、在ソ連日本大使館、広島県警本部長・警察庁長官官房審議官等を歴任。ソ連東欧の崩壊、湾岸戦争、阪神淡路大震災、オウム真理教事件、北朝鮮対策、国際テロ対策、サイバーテロ対策等に従事。主に危機管理・情報収集を歩む。

平成二十年度世話人

(高2回)	丹羽 鼎	服部 登
(高3回)	有馬 弘	杉浦 嘉久
(高4回)	木村 富司	中根 淳
(高5回)	鶴田 文男	藤田 邦弘
(高6回)	村上 潤子	高8回
(高7回)	木村 富司	高10回
(高8回)	高11回	高12回
(高9回)	高13回	高14回
(高10回)	高15回	高16回
(高11回)	高17回	伊与田 正彦
(高12回)	高18回	山田 博子
(高13回)	高19回	都築 正行
(高14回)	高20回	石原 荘介
(高15回)	高21回	鈴木 貞雄
(高16回)	高22回	天野 隆太郎
(高17回)	高23回	青山 裕治
(高18回)	高24回	辻村 貴典
(高19回)	高25回	山田 俊文
(高20回)	高26回	福山 透
(高21回)	高27回	佐伯 寛子
(高22回)	高28回	村木 央明
(高23回)	高29回	辻村 貴典
(高24回)	高30回	丸川 美雪
(高25回)	高31回	水谷 鏡子
(高26回)	高32回	本多 正之
(高27回)	高33回	成瀬 徹
(高28回)	高34回	佐伯 寛子
(高29回)	高35回	高木 正巳
(高30回)	高36回	米津 智徳
(高31回)	高37回	山崎 正枝
(高32回)	高38回	柳博史
(高33回)	高39回	上田 洋子
(高34回)	高40回	丸川 美雪
(高35回)	高41回	山口 知子
(高36回)	高42回	木村 美穂子
(高37回)	高43回	山崎 正枝
(高38回)	高44回	井上 由美子
(高39回)	高45回	坂谷 敏正
(高40回)	高46回	竹尾 誠
(高41回)	高47回	重徳 和彦
(高42回)	高48回	磯谷 陽
(高43回)	高49回	太田 武
(高44回)	高50回	山野 健二
(高45回)	高51回	菅原 麻子
(高46回)	高52回	平山 健二
(高47回)	高53回	板谷 敏正
(高48回)	高54回	堀内 友二
(高49回)	高55回	安藤 実保子
(高50回)	高56回	三田 桂子
(高51回)	高57回	加藤 千春
(高52回)	高58回	中島 実保子
(高53回)	高59回	矢嶋 美裕
(高54回)	高60回	安藤 実保子
(高55回)	高61回	細田 晃展
(高56回)	高62回	西浦 瑞恵
(高57回)	高63回	山田 英嗣

●座談会シリーズ第4弾!

—芸術の道を歩むOB・OGたち—

長野 今日は世代、分野を広く跨いで芸術家の方々にお集まり頂きました。岡高の卒業生にはこういう方々もいらっしゃるんですね! という驚きを読者の皆様も持たれるのではないかでしょうか。(笑)

教師から好きな道へ

中根 私は毎日油絵を描いております(笑)。絵描きになれるとは思つていなかつたのですがね。戦争から帰つて来た後、3年位教師をやりまして、生徒が卒業して好きな道に進むと乗つて、いつらつたのです。

芸大には昭和24年に入りましたが、皆より5位年上でしたね。そういうのが結構多かつたんですよ。あまり気にしませんよね、そういうことは。

中根 それで、僕は結構間に合つちゃうから、幹事をやらされ、そのうち一年上の前任者が外国に行くと

いうので、後を引き受けることになり、そのままずっと大学に残つているんですね。ずっと創作を続けていらし



中根氏(中43回)

中根 て、産み出し続ける苦しみつてあると思うんですけど。

まあ好きな事ですから苦い事はないであります。当時の空気は自然主義的な写生から始まっているから、あんまり変わったことはしていないんです。最近の新しいものなんかを見て、「これでいいのかなあ?」と自分を見つめることありますけど、今更そういう事が出来ないです。

内藤 続けていらつしやる中でも、毎回が瞬間に、新しいんだろうなあ?

中根 いやあ、展覧会がありますから、その日程に合わせて間に合うように作品を創るといふその日暮らしのようになつちやうんですよ(笑)。

好きな道へがむしゃらに

長野 では、芸大の後輩の内藤さんに伺いましょうか?

内藤 私はマリンバという木琴から始めて、ずっと打楽器をやっています。中学ではそこそこ

成績が良かつたのに、岡高

講習に出たので夏休みの補習は受けない」と言つたところが、先生から「じゃ、何でここ(岡高)にいるの?」といふような言い方をされ、こういう人がいよいよいました! と「東京芸大に行きたい」と乗りで言つてしまつたんですね。

長野 それならいいだろう! って(笑)。それならいいだらう! って(笑)。そうそう。それからがむしらに頑張りました。何年かかってもいいと思ったんですけど、運良く入れました。クラシックをやつていきましたが、ある時、「自分の言葉で語りたい」と思い始めたんですけど、時代も違うし、やっぱり自分の言葉で自分のメッセージを伝えた。音楽を通して音を創るんじゃなくて「事を創りたい」と。それでボップスを始めました。今はピアノとヴィブラフォンのデュオ「タマトミカ」としてやつています。自称「ミソ(三十?)ジエンヌ」。幾つになつても伝えたいことを持つていれば道は開けると思っており、段々テレビやラジオのお仕事も頂けるようになりました。

中根 まあ好きな事ですか苦い事ではないであります。当時の空気は自然主義的な写生から始まっているから、あんまり変わったことはしていないんです。最近の新しいものなんかを見て、「これでいいのかなあ?」と自分を見つめることありますけど、今更そういう事が出来ないです。

内藤 続けていらつしやる中でも、毎回が瞬間に、新しいんだろうなあ?

中根 いやあ、展覧会がありますから、その日程に合わせて間に合うように作品を創るといふその日暮らしのようになつちやうんですよ(笑)。

好きな道へがむしゃらに

長野 では、芸大の後輩の内藤さんに伺いましょうか?

内藤 私はマリンバという木琴から始めて、ずっと打楽器をやつています。中学ではそこそこ

成績が良かつたのに、岡高

講習に出たので夏休みの補習は受けない」と言つたところが、先生から「じゃ、何でここ(岡高)にいるの?」といふような言い方をされ、こういう人がいよいよいました! と「東京芸大に行きたい」と乗りで言つてしまつたんですね。

長野 それならいいだろう! って(笑)。それならいいだらう! って(笑)。そうそう。それからがむしらに頑張りました。何年かかってもいいと思ったんですけど、運良く入れました。クラシックをやつていきましたが、ある時、「自分の言葉で語りたい」と思い始めたんですけど、時代も違うし、やっぱり自分の言葉で自分のメッセージを伝えた。音楽を通して音を創るんじゃなくて「事を創りたい」と。それでボップスを始めました。今はピアノとヴィブラフォンのデュオ「タマトミカ」としてやつています。自称「ミソ(三十?)ジエンヌ」。幾つになつても伝えたいことを持つていれば道は開けると思っており、段々テレビやラジオのお仕事も頂けるようになりました。

に入つたら、いきなり三桁の成績を受け取つて衝撃を受け、すぐに音楽の道に進もうと決めました(笑)。音楽高校も選択肢に考えていましたから。それで、「音楽大学の講習に出たので夏休みの補習は受けない」と言つたところが、先生から「じゃ、何でここ(岡高)にいるの?」といふような言い方をされ、こういう人がいよいよいました! と「東京芸大に行きたい」と乗りで言つてしまつたんですね。

長野 う! と「東京芸大に行きたい」と乗りで言つてしまつたんですね。

恵まれた環境に育まれ指導者に

伊与田 伊与田さんもずっとバレエを続けていらつしやるんですね。

長野 そうですね。4つの時からなんで、もう生涯を通じてということですよ。家がレコード楽器店だったんで、クラシック音楽が自由に耳に入れる環境で、しかも親がバレエのスタジオを造っちゃつたんです。それで有無も言わさず、踊るのが当たり前になつてましたね。

内藤 環境がよかつたね。

伊与田 岡高には兄が行つてゐるから、とにかく近いからということです。内藤さんと同じように高校卒業したらどうする? ってことになつたんですけど、私の場合は先生も「お前はバレエがあるから、いいか勉強は。」という感じでしたね。とにかく格好からして思ひ切り浮いてましたから(笑)。

長野 つてことになつたんですけど、私の場合は先生も「お前はバレエがあるから、いいか勉強は。」という感じでしたね。とにかく格好からして思ひ切り浮いてましたから(笑)。

伊与田 そうですね。それで、東京バレエ団を受けたらまたま受かつたんです。入つてみたら、皆さん背が高くてスタイルが違うんですね。それで

8月からはSMA(ソニー・ミュージック・アーティスト)に所属して本格的に活動します。常に探し続けて生きていけたらなと思っています。

長野 そこで、それでコンクールに出たり、プロになるようになります。それでコンクールに出たり、プロになるようになります。それで障害のある子のクラスを日本で初めて作つたんです。そして初の障害者のコンクールつていうの、まずうちの娘が一位を取り、後輩の子も次々と受賞するようになつて、引つ込みがつかなくなつて今まで続いているんです(笑)。



伊与田 すぐ悟りました。子供が生まれたら絶対に踊りますが、生きてきた这么多年も指導者の道を選んだのです。子供が生まれたら絶対に踊りますが、生きてきた这么多年も指導者の道を選んだのです。

内藤 夜間で音楽療法の学校に通つてたんですよ。

伊与田 すぐなんですか?

内藤 ええ、芸大の4年生の時に



伊与田氏(高20回)

内藤 言葉が無くとも音楽で、耳が聞こえなくても振りで会話をやりました。

伊与田 楽器の響きを感じるとか。あと、聞こえてなくとも打楽器があるんですね。

伊与田 賞を取らせたりする子と二刀流でやつて相乗効果があるんです。

中根 いい選択をされましたね。

伊与田 偶然なんですよ。

内藤 あと、聞こえてなくとも打楽器の響きを感じるとか。

伊与田 賞を取らせたりする子とお互いに刺激になつて相乗効果があるんです。

伊与田 言葉が無くとも音楽で、耳が聞こえなくても振りで会話をやりました。あと、聞こえてなくとも打楽器の響きを感じるとか。

伊与田 賞を取らせたりする子と二刀流でやつて相乗効果があるんです。

内藤

15歳位からというすごく大

伊与田

内藤 僕も東京都の身障者の美術展というのに毎年審査を行つてますが、素晴らしい才能を持つた人がいますよ。普通の人には無い感覚を持つていてら

長野 感性の部分が我々とは違

伊与田 を弾くと、タン、タンつてい

うりズムの間の音があるんで

伊与田 空間が造れるから。いいな、

伊与田 二刀流でやつて相乗効果があるんです。

中根 いい選択をされましたね。

伊与田 偶然なんですよ。

伊与田 「間」なんですよ。例え

伊与田 やろうと思って出来るん

内藤 じやないんです。

伊与田 ば、私は今、絵で言つたら白にすごく興味があるんです。

伊与田 「物がある」んじゃなくて「それがあるからこそ物がある」。白にされることで可能だだけはしようがない。

伊与田 時代の差はありますね。今習いに来ている子たちはばらばらですね。一昔前だと、共に上手くなつていこうとうところがありましたけど。個性という点ではいいんですけど、バレエの場合、群舞がありますから、チームワークが取れなくて。まあ、言い聞かせていけばわかるんですけどね。

伊与田 事な時期ですからね。それが大事ですよね。僕たちはその時期を戦争中に育つてて、5年下の連中とは年齢は

伊与田 そんなに違わないけど、世界が違つちやつてるという気がしてますね。羨ましいけど、これだけはしようがない。

伊与田 時代の差はありますね。今習いに来ている子たちはばらばらですね。一昔前だと、共に上手くなつていこうとうところがありましたけど。個性という点ではいいんですけど、バレエの場合、群舞がありますから、チームワークが取れなくて。まあ、言い聞かせていけばわかるんですけどね。

伊与田 事な時期ですからね。それが大事ですね。僕たちはその時期を戦争中に育つてて、5年下の連中とは年齢は

伊与田 事な時期ですからね。それが大事ですね。僕たちはその時期を戦争中に育つてて、5年下の連中とは年齢は

伊与田 事な時期ですからね。それが大事ですね。僕たちはその時期を戦争中に育つてて、5年下の連中とは年齢は



内藤氏(高48回)

内藤 高校時代にそういう感性が培われたということはありませんか?

伊与田 「私はバレエがあるわ」というんで、バレエが糧になつてしまつたね。数学が出来ない分、余計頑張つたかも知れないですね。

長野 岡崎時代にはクラスみんなでという感じがありましたね。私の時代は体育祭の中に仮装大会があつて、各クラスが命がけで競い合つたんですね。私は水を得た魚みたいに張り切りましたよ。

伊与田 バランスっていうことになりますね。個性があつて自分があつて、でも社会で生きていく以上は、というところもありますよね。

伊与田 バランスっていうことになりますね。個性があつて自分があつて、でも社会で生きていく以上は、というところもありますよね。

伊与田 事な時期ですからね。それが大事ですね。僕たちはその時期を戦争中に育つてて、5年下の連中とは年齢は

内藤 うちの娘なんか、ピアノを弾くと、タン、タンつてい

うりズムの間の音があるんで

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 ああ、それ強い!

伊与田 つていうんですか? それで表現したら、審査員の方がすごく感動なさつて、それを表現したんですよ。それが娘の魂の叫びなんですよ。それがすごく感動なさつて、それ

伊与田 で賞を頂いたんです。普通だったら、1、2、3、4で踊るんですけど、違うんですよ。

内藤 うちの娘なんか、ピアノを弾くと、タン、タンつてい

うりズムの間の音があるんで

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 ああ、それ強い!

伊与田 つていうんですか? それで表現したら、審査員の方がすごく感動なさつて、それを表現したんですよ。それが娘の魂の叫びなんですよ。それがすごく感動なさつて、それ

伊与田 で賞を頂いたんです。普通だったら、1、2、3、4で踊るんですけど、違うんですよ。

内藤 うのと1の間にある音

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 うのと1の間にある音

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 うのと1の間にある音

伊与田 うのと1の間にある音

中根 今はそういうのを幅広く認める時代になつてきたから

内藤 えとして3年間生きてましたね。

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 うのと1の間にある音

伊与田 うのと1の間にある音

内藤 うのと1の間にある音

内藤 美佳子(高48回)

東京芸大的同期生たまさん(ピアノ)と組みポップ・アコースティック・イージーリスニングと幅広いジャンルでメジャーでメジャーで

内藤 寛(中43回)

東京芸術大学名譽教授 洋画家

伊与田あさこ(高20回)

チャイコフスキ記念 東京バレエ団 伊与田バレエスタジオを主宰



長野 麻子

司会 長野麻子(高42回)

農林水産省大臣官房情報評議課勤務

段戸フォーラム好評開催中！

首都圏段会では会員向けの勉強会として段戸フォーラムを定期的に開催しています。例年、上半期は経済、行政、学術分野の第一人者を、下半期はキャリアアップをテーマに留学や起業経験者を講師としてお招きしています。講師はもちろん



岡崎高校OBです。平成20年度の最初のフォーラムは7月30日に政策研究大学院大学副学長の大山先生（高16）をお招きし、「大学と私－大学生活35年雑感」をテーマに、

日本の大学と米国の大学の違いや大学の将来といった話題と専門で取り組んでいる数理的アプローチ活用した社会システムの分析などの一端をご紹介いただきました。当日は猛暑にもかかわらず現役の学生から大先輩まで約30名が集散し熱心に耳を傾けるとともに、引き続き開催された懇親会（居酒屋）でも暑い討議が繰り広げられました。

文責：板谷敏正（高34回）

段戸会オープンキャンパス2008

好天に恵まれた8月9日（土）、2回目の首都圏段戸会オープンキャンパスが開催されました。この企画は、若手会員の「現役岡校生の頃は段戸会の存在を知らず、また大学生の生活がどのようなものか全くわからなかった。大学生の今、高校生をサポートすることができたら、という思いがある。」という意見をもとに昨年から開催されています。

いろいろな大学を見せてあげたいという思いもあり、日程や訪問先を岡崎高校の先生方と相談したところ、ちょうどSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の活動で東大に来ている生徒さんもいて希望が一番多く、多くの先輩の話も聞けるから、という理由で、昨年に引き続き東大本郷キャンパスでの開催となりました。

昨年度は岡高5人アテンダント4人だったのですが、今回はなんと岡高17人（1年生3人、2年生8人、3年生4人、先生2人）、アテンダント6人（うち現役学生3人）の参加となりました！昨年の取り組みに対して岡高側からも評価していただいた結果のようです。

岡崎から到着し、わくわくした様子の生徒さんたちと、ま



ずは中央食堂でランチ（実際に学生が食べるメニュー）と一緒に取りながら気持ちを盛り上げ、先輩達と懇談するチームと、先輩の案内でキャンパスや学内施設を見学するチームの二手に分かれ、交代で内容の濃い時間を過ごしてもらいました。

生徒さん達からは「経済学とはどんな学問か」「大学の専門はどのように会社で生きるのか」「会社に入っても勉強するのか」など活発に質問が寄せられ、学生や社会人のアテンダントは精一杯真剣に答え、気持ちを伝えていました。高校生活の『結果』である、数年後の自分をリアルに想像してもらいたい。そして、高校生活をどのように過ごすかを考えもらいたいという思いが多少なりとも伝わったでしょうか。

最後に、首都圏段戸会の世話人として、「受験勉強を頑張って、是非大学に受かってください」「できれば首都圏の大学に来てください」「そうしたら必ず、首都圏段戸会に登録してください」「そして、今日のような後輩のサポートを我々と一緒にやってくれたら最高です」というメッセージを送らせていただきました。

オープンキャンパスに参加してくれた生徒さん達と、総会で会える日を楽しみにしています。



文責：筒井貴之（高45回）

首都圏段戸会「世話人会」の活動

世話人会は、各卒業年度から1～3名の代表が出席して成り立っています。

年間5回、平日の夜間に集まり総会・懇親会開催の打ち合わせ、講演者の決定、招聘恩師の選出、会報の発送作業、その他段戸フォーラムの開催、サークル活動、等々の情報交換、首都圏在住OB・OGの把握作業、予算案の検討などを行っています。終了後の各年代入り混じっての慰労会も

楽しみの一つです。

現在、高校10回生以降で世話人が欠けている年代は次の年度です、是非、ご自身の年代を代表して参加してください。



総会・懇親会案内状、会報発送作業

高24回、高28回、高29回、高33回、高36回、高37回、高38回、高39回、高47回、高48回、高50回、高53回、高56回、高59回、高60回

「首都圏段戸会」公式ホームページ <http://homepage3.nifty.com/dandokai/>

※週1回以上は更新されていますので是非チェックしてください。〔メールアドレス：
お問い合わせは「事務局宛メール」からお願いします。〕nqd28299@nifty.com

首都圏段戸会草創期の思い出

歌の文句ではないが、夏が来ると思い出す。今年も夏の高校野球地区予選が始まり、わが母校の戦績をネットで検索したり、関東地区予選はTVで見ながら岡中、岡校は強かつたなあと感慨無量、昔を懐かしく思う様になったのは年の所為か。首都圏段戸会の始まりは、其の野球部関係者の方々のお骨折りで始まったと聞いています。野球部部長だった中学26回（大正14年）卒業の北岡健二先生の発声で、在京の野球部関係者に呼びかけられ、お互いに知り合いを誘い第1回の会が昭和47年8月に学士会館で38名参加して発足したとの記録が残っています、以来会の取り纏めは高島屋工作所専務を勤められていた中学32回卒、太田鎧二氏が世話人の代表を勤められ、以来途切れる事も無く継続し今日に至っております。その間会場は、松本楼、松屋サロン、と変り松屋サロンは支配人が中学40回卒の榎氏が勤務されていた関係で昭和50年から55年迄使わせて頂くと言う様に、岡中、岡校卒業生の方々の協力を得て継続して来ました。其の間、平成2年に第1号の会報を発行しましたが、私の手元には第2号からの会報と昭和59年10月現在の首都圏在住者名簿、（発行代表者、中学50回、宮島駒夫、編集者、高8回、三島元）首都圏段戸会のあゆみ記録（第1回～26回）が手元にあります。恩師招聘が

始まったのは第9回（昭和56年）農林年金会館からです。15回（昭和62年11月）からは経費の関係で、中学47回の神谷さんが支配人をされていた、メルパルクに会場を変更しました。

思い出を話し出せば語り尽せないほど、先輩、後輩の方のご協力があったから継続出来たと思います、此の段戸会に参加したのは第4回の松屋サロンからですが、此れも中学卒だけでは後が続かないからと高校卒にも呼びかけが始まると、聞きよんでいます。先輩の太田さんには、準備の打ち合わせに呼ばれては、度々、高島屋の特別食堂でうなぎをご馳走になりました、年1回の開催に多くの方に参加して頂き岡校、岡中の想い出話を語って貰えればとの考えで継続してきました。4回以来は2回卒の木村博氏が裏方として一番苦労したと思います。当時の人も後期高齢者の仲間になり、今の内ならゆっくりと食事をしながら想い出話を記録したなら、意外と新しい発見があるのではと思います。

第2回以降の会報を、ホームページに掲載するのも面白いのではないかと愚考します。

駄文になりましたが、語り尽くせません。

（服部 登：高2回）

「官」と「民」を経験して

実現できるのではなかろうか。

社会が悪いと文句を言っているだけでは世の中はよくなりません。自分が社会に対してできることをそれぞれの立場で実践していくことが今求められていると思います。これには「官」「民」の区別ではなく、年齢、性別も関係ありません。志のある「志民」として、一人一人が世の中をよくしたいと動いたら、きっと幸せな未来が訪れるに違いありません。明治維新の志士たちもそんなことを考えていたのかもしれませんね。役人として、個人として、私にできることを積み重ねていきたいと思っています。

文責：長野麻子（高42回：農林水産省勤務）

卒業後も広がる岡高の輪

ませんでした。あとでお互い卒業アルバムを確認し、「あ、本当だ、いたいた」という感じでした。また、別のサークルでも、同級生の井上朋美さんと一緒にいました。しかし岡高時代には、職員室で「このプリント持っていく？」「あ、うん」の一言ずつしか会話をしたことがない、知り合い以上友達未満の仲といったところでした。

でも、二人ともすぐに仲良くなり、今ではかけがえのない友達です。この二人にとどまらず、大学で岡高の輪はさらに広がりました。せっかく同じ校舎で同じ青春時代を過ごした仲間なので、これから先、社会に出た後も増やしていくたらと思います。

文責：門池金八（高58回）

《サークル活動》に関するお問い合わせ

皆さまの参加をお待ちしております！

“段戸団碁会”

（代表：藤田 訓弘 高13回）kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸華教室”

（代表：西浦 瑞恵 高45回）usagi-m@msg.biglobe.ne.jp

“段戸音楽会”

（代表：長野 麻子 高42回）asako_nagano@nm.maff.go.jp

“段戸俳句会”

（代表：小森 葵子 高13回）shigeko_komori@ybb.ne.jp

“段戸「山の会”

（代表：板谷 敏正 高34回）itaya@propertydbk.com

“段戸ゴルフ会”

（代表：木村富司雄 高10回）BYR10566@nifty.ne.jp

トピックス

(1) 旧愛知県立第二中学校講堂

二中は明治30年（1897年）岡崎市戸崎町に創立され、明治40年（1907年）に講堂がつくられた。その後、大正13年（1924年）に学校が明大寺町に移転したため、翌14年に日清紡績が講堂を買い取り現在地（岡崎市針崎町字カンジ46）へ移築した。

以来、同社女子従業員の演劇・娯楽・式典などの場として使用されていたが、現在は物置としてひっそり残されている。

最近になって日清紡績が同工場跡地を再開発することとなり、講堂も取り壊しの危機に瀕した。そこで岡崎市は岡崎に残る唯一の明治建築の保存に動き、同講堂を市で引き取ることになった。

岡崎市教育委員会事務局文化財班稲垣主任主査談：いずれ再開発のおりには、日清紡と調整しながら一部を公



園化しその敷地内に保存して行きたい。

※建物規模：木造平家建、間口16.15m、奥行19.75mの長方形、プラス奥行2.35mの玄関ボーチがある

(2) 岡高校野球部甲子園出場の思い出

世に「文武両道」という言葉がありますが、いまや岡崎高校は「文」の面で全国トップクラスの高校としてその名を馳せています。しかし岡高の長い歴史のなかで野球部が、昭和24年春（1949年）と29年春（1954年）の2度にわたり甲子園出場を果たし、当時は「武」の面でも全国に知れわたりました。今回は昭和29年春出場チームの一員であった神谷光春氏（高8回）に当時の様子を語っていただきました。

「昭和28年（1953年）夏が過ぎて新チームとなり、部員13名（2年生6名、1年生7名）の少人数でスタートした。日々の練習は厳しく、怒鳴られっぱなしの連続であったことが思いだされる。秋の西三河地区大会で優勝し愛知県大会へ進出、なぜかとんとん拍子で決勝戦まで勝ち進み、決勝戦の中京商業には敗れたが準優勝で東海四県大会へ中京商業とともに出場、ここでも決勝戦で中京商業に負け涙をのんだが、翌春の全国高校野球選抜大会に選出されるのが、ほぼ確実となった。それからの練習は一段と厳しく、毎日個人ノックの連続などの猛練習で、よく耐え忍んで頑張ったと今でも思う。昭和29年2月、2回目の甲子園出場が正式に決定した（注：初回の出場は昭和24年春）。同年3月、僅か13名の部員で甲子園へ出場したのである。大

観衆の中、入場行進では「アガッテ」いるのか足調が合わず前の人手の振りばかり見て自分も合わせていた思いであります。

試合は入場行進のあと第2試合で四国代表の鳴門高校と対戦、0対4で敗退した。

試合中、杉浦投手の外野フェンス直撃の2塁打が出た時、筒山先生（監督・故人）が「ハイレ！ハイレ！ホームランになれ！」と大声で呼ばれたことが今でも目に浮かびます。1回戦で敗退したが、私にとって野球、特に甲子園へ出場出来たことが「青春ドラマ」であり、なかなか味あうことの出来ない素晴らしい経験と体験を得た。この喜びと岡高で学んだことを合わせ「岡高野球魂」が人生においても今日までの支えになりました。近年の岡高は進学校として頑張っているが、勉学と部活、「文武両立」して、また後輩の甲子園出場がかなう日を願うものであります。

〈文責：神谷光春（高8回）元岡高野球部員〉

〔編集者の一言〕当時2年生になったばかりの小者は、旧国鉄（JR）岡崎駅から東海道線の夜行普通列車に乗って応援に行きました。馴れない旅で一睡も出来ず、あこがれの甲子園アルプススタンドへ着席とともに睡魔におそわれ試合経過はおぼろげながらしか記憶にありません。唯一、杉浦投手の二塁打が出た時は周囲の歓声に目を覚まし、良く覚えています。大阪駅からの帰りも再び夜行、帰宅とともに玄関先で倒れるように寝込みました。

編集後記

会報の編集を平成16年（秋号）から担当し、足掛け5年が過ぎました。

その間に首都圏段戸会の活動は隆盛の一途をたどり、それに合わせて会報の発行も年1回（秋号のみ）から年2回（春号・秋号）となり、昨年からは岡高の教職員及び在校生全員に配布するまでになりました。現在の発行部数は3,200部です。お陰で編集者としては、1年をとお

して追いかけられている感は否めませんでしたが、何とか8回の発行を無事終えた安堵感とともに、このような機会を与え、協力して下さった先輩、同期、後輩に感謝の気持ちで一杯です。次号からは次世代の編集者が新しい視点で充実した会報をお届けすると思います、ご期待下さい。（Y.S）

第36回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 平成20年11月2日(日) 13:30~17:00

●場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
千代田区九段北4-2-25
(TEL 03-3261-9921)
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅(有楽町線、南北線、
新宿線)から徒歩2分



●講演会 テーマ:「警察の治安維持の舞台裏」

～変化する治安レポートリー：トイレ掃除から情報衛星まで～

講 師：内山田邦夫氏(高21回) (株)神戸製鋼常任顧問

警察庁長官官房審議官(警備局担当)、警察大学校長などを歴任

●会 費 男性 8,000円 女性 6,000円

☆割引制度

- ・古稀を過ぎた会員(高8回以前) 5,000円
- ・夫婦割引 同伴の女性会員は半額の3,000円
- ・若手割引(高46回以降) 5,000円
- ・学生割引 1,000円

☆ご招待制度

- ・古稀を迎えた会員の方は、ご招待(会費無料)とさせて頂きます。
- ・今年度対象者：高校9回(昭和32年3月卒)の皆様

●招聘恩師(予定) 岩城 浩先生(世界史) 鈴木 幹也先生(保育)
祖父江 義信先生(数学) 水野 謙二先生(英語)
川喜田 隆司先生(理科) 三浦 修嗣先生(数学)
都築 暢也先生(地歴)

●事前会員登録のお願い

総会・懇親会にご参加頂ける方で、首都圏段戸会の会員登録がまだお済みでない方は、お手数ですが、首都圏段戸会ホームページ(<http://homepage3.nifty.com/dandokai/>)の「会員登録・変更」のページから事前にご登録頂ければ幸いです。

2007年(H19年) 首都圏段戸会総会への出席者の一覧

(校長)	石井政一	糸田輝義	近藤陽三	米津智徳
(恩師)	市川崇 加藤悟	笹瀬修	中野元雄	(高31回) 高原正之
	小清水重之 近藤恵子	金澤忠幸	中島綾子	藤井義之 土井真樹
	山田澄江	水谷鏡子		(高32回) 高岡由恵 田畠誠子
(タマトミカ)	広田圭美	(高15回) 雨宮薗夫	杉崎慎一郎	中根俊樹 早川慎吾
(岡崎混声合唱団)	佐藤雅代 佐藤晃二	深田正義	満江信之	原えつ 堀内友二
	大代知穂	(高16回) 大山達雄	鈴木貞雄	丸山隆志 三宅耕二
(高1回)	山本治	野村親信		相木小百合 板谷敏正
(高2回)	青山敦夫 石川耕春	(高17回) 伊与田正彦	佐伯寛子	鈴木広之 高田由美子
	今井敏夫 服部登	鈴木寛	中野房子	鳥居隆志 吉村玲子
(高3回)	宇津野隼千 小澤一郎	兵藤善之	廣田幸子	菅伸介 鈴木俊英
	加藤正義 鎌木道子	武藤隆子	山田博子	古澤昌宏
	久保雅之 後藤三千代	(高18回) 石原莊介	伊藤博邦	(高40回) 大田武
	鈴木亮 中堀正章	(高19回) 石榑直美	岡部芳郎	(高41回) 磯谷陽子 松本由香
	丹羽鼎 蜂須賀芳昭	宍倉由美子	高橋伸芳	(高42回) 青柳麻里 小西玄一
	平井英次 柳澤玖枝	時田和芳	南郷孝	(高43回) 杉山崇
	米津勇美 長瀬けい子	野澤信一	則竹千恵子	(高44回) 倉内雅弘 八田益之
(高6回)	有馬弘政 市川毅	福島安史	福山透	(高45回) 大代朋和 辻内理枝子
(高7回)	青山明博 近藤衛	村木央明	稻垣春夫	(高46回) 筒井貴之 西浦瑞恵
	斎藤悦子 杉山修	天野隆太郎	遠藤昇	横山泰生 朝岡大輔
	高橋里恵子 蜂須賀ケイ子	伊与田あさ子	神尾由恵	浅井太郎 大川博
	羽谷允 村上灘子	小路光子	小路光子	岩田康寿 鈴木雅也
(高8回)	森周子 安藤逸平	関戸博高	稻垣春夫	(高47回) 大岡明日香
	五十嵐圭子 内田成子	寺田明子	遠藤昇	田中宏卓
	大矢一夫 小野勝巳	兵藤秀和	神尾由恵	角田高志
	近藤忠男 鹿野貞子	足立純一	小路光子	江尻和史
	杉浦嘉久 杉本和彥	佐久間利章	吉原誠	細田晃展
	外村仁 高橋道人	丸川美雪	渥美忠男	今泉貴雅
	田中厚生 内藤忠	青山裕治	徳田登	石川周平
	西山啓二 山本朝子	内海正富	山田俊文	辻内直子
	斎藤聖子 近藤和佳子	齊藤光保	上田洋子	服部昌平
	高木治子 宇佐美忠利	藤岡寿美子	近藤純子	安藤美保
(高10回)	木村富司雄 青木かゑ子	(高23回) 野々山浩	中村賢治	安藤康伸
(高11回)	杉山樹三郎 中根淳	(高25回) 稲垣智子	程田さとる	岡田尚博
	橋本晃芳 成瀬昌芳	戸田譲三	岡田芳明	石橋亮
	三浦美穂子 本多慶成	中根千恵子	戸田妙子	小栗繩
	水野義之 伊藤秀一	三ツ井信男	樋江井和徳	長橋究
(高12回)	稲垣早苗 堤三郎	石橋容子	山本三郎	山田英嗣
	鶴田尚弘 鶴田文男	織田利彦	大久保律子	(高55回) 伊藤慶美
	成瀬徹 吹抜洋司	竹田優子	高橋芳子	服部安佑
	神道千秋 鈴木功一	松井源治	富田信子	(高56回) 大久保想
(高13回)	中 浩之 本多正之	山本修己	山口知子	樋口武志
	天野彰 阿部完二	(高27回) 河原仁志	高木正己	竹内崇仁
	磯尾進 太田真澄	山崎正枝	山田和生	山田麻里
(高14回)	大館眞弓 笠原紘	(高28回) 石田邦雄	竹内彰	悟
		長坂信人	木村美穂子	友
		(高30回) 大岡久芳	中島記代	新家春
			森川さとみ	菜望

運営基金協力のお願い

首都圏段戸会会長 外 村 仁

秋涼の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

毎年、運営基金のご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。首都圏段戸会は、年に1度の総会・懇親会はもとより、同じ趣味を持つ会員が段戸サークルとして交流したり、幅広い分野で活躍する会員を講師に招いてフォーラムを開催したり、世代を超えたネットワークとしてその役割を充実させてきております。また、年2回発行の会報を全在校生に届けたり、首都圏の大学を目指す後輩にオープンカレッジとして学生生活を紹介したり、就職を目指す後輩に社会人としてのアドバイスの機会を設けたり、次世代を担う後輩たちとのコミュニケーションにも工夫を重ね、更なる持続的な発展を目指しております。

このように当会は引き続き順調にその活動を充実させていっておりますが、これにはほぼ各年次にわたる世話をはじめとする関係者のボランティア精神に加え、何といっても、会員の皆様から寄せられる運営基金が大きな支えになっています。平成18年度は448名の方から1,401千円、19年度は422名の方から1,386千円、20年度上半期は110名の方から334千円のご支援を頂いております。

毎度のお願いで恐縮ですが、本年度も是非、ますます盛り上がる首都圏段戸会を支援する輪に加わっていただきたく、運営基金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

首都圏段戸会会計報告（平成19年度）

貸借対照表

平成19年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
現 金	1,385
通 常 貯 金	191,598
郵 便 振 替	1,061,830
資 产 合 計	1,254,813
II 負債の部	
未 払 金	0
負 債 合 計	0
III 正味財産の部	
正 味 財 産	1,254,813
負債及び正味財産合計	1,254,813

収支計算書

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで (単位：円)

科 目	金 額
I 収入の部	
会 費 収 入	1,381,000
運 営 基 金 収 入	1,301,000
寄 付 金 収 入	94,400
受 取 利 息	1,113
当期収入合計	2,777,513
II 支出の部	
総 会 費 用	1,665,890
印 刷 費	517,941
通 信 費	383,115
世 話 人 会 費 用	214,460
雜 費	59,205
当期支出合計	2,840,611
当 期 収 支 差 額	- 63,098
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,317,911
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,254,813

監査報告書

首都圏段戸会の平成19年度（自平成19年1月1日至平成19年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成20年7月11日

会計監査 丹羽 鼎

会計監査 木村富司雄

平成19年度運営基金協力者